

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 7 月 18 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870105644
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホームあいじゅ
所在地	愛媛県松山市東方町甲814番地3 (電話) 089-963-5520
管理者	大栄 幸枝
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15
訪問調査日	平成 20 年 6 月 6 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 23 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 5 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 12 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	13 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有()円	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食 300 円	昼食 300 円	
	夕食 400 円	おやつ 円	
	または1日当たり	円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 5 月 15 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84.8 歳	最低 67 歳	最高 96 歳		

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、玄関から山裾の田園風景を眺めることができ、リビングからは川沿いの桜並木を間近に見ることができる風光明媚な場所にある。隣接している同法人の施設には歴史があり、地域に根付いた運営がなされており、ホームもその理念に沿った取り組みを実践しており、ゆっくりとした時間が利用者に提供されている。管理者はケアの質が向上するための取り組みには余念がなく、「対策」「評価」「改善」と着実にやっている。運営法人は多くの福祉事業を行っており、専門的な指導やアドバイスを受けやすい環境にあることも大きい。管理者の長いケア実

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)

地域との関わりに関して、「ホーム側から地域に入っていく」ことを始め、民生委員や自治会、近隣住民との交流が開始されている。また、地域包括支援センターの職員と協同してグループホーム連絡会を始めるなど、同業種との交流も始められている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)

職員全員が自己評価を行い、ミーティングで話し合いがもたれた上で、評価票をまとめている。自己評価をケアの振り返りの時間として捉え、丁寧に取り組んでいる。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)

開設当時から開催されている運営推進会議は回数を重ねており、議題についても広がりが見え始めている時期である。地域包括支援センターの職員と管理者が知り合いであったことも会議を有効にしている要因のようで、気軽に相談や話し合いが持たれている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)

家族の面会が多いため、直接に話し合いができる機会が多い。ホーム便りや電話連絡などでも利用者の生活ぶりを伝えており、積極的なコミュニケーションが図られている。また、家族会も開催しており、意見箱の設置や法人内の第三者委員会など、家族が意見の出しやすい配慮がなされている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)

「地域に入っていく」ということを実践するために、地区社協や公民館行事に積極的に参加している。民生委員や自治会の方に顔なじみができ、地域の情報が蓄積されつつある時期であり、今後は利用者が主役となる取り組みを行うことが求められる。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

Ⅴ.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームあいじゅ

(ユニット名)

愛

記入者(管理者)

氏 名

大栄 幸枝

評価完了日

平成 20 年 5 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 皆で話し合い運営方針への理解を深め皆で取り組める理念を作り取り組んでいる。 (外部評価) 隣接施設の開設は古く、法人として地域に密着した活動が培われており、その基盤の上にホームの運営がスタートしている。そのため、地域との関わりの重要性をよく理解しており、理念にも地域が組み込まれている。	※	今後も職員利用者共に定期的に話し合っていきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 利用者一人一人の尊厳を守る事を常に意識できる様、理念を目の届く所に掲示し、実践に向けて取り組んでいる。 (外部評価) 管理者と職員は、利用者のケアについては会議以外でも日常的に話し合いを持っている。管理者の理念はそのキャリアに裏付けされており、理念はケアを実践する時の基盤であるという話には重みがある。管理者と職員は良好な関係から、真摯な話し合いをもっている。	※	理念に沿ってサービスが行えているか今後は、定期的にワーカー会等話し合いの場に出し再認識していきたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議、家族会の時や面会に来られた時、理念の大切さ思いを含めお伝えしているが地域への浸透はできていない。	※	運営推進会議などを通じて地域に向けて理念の浸透を図りたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩中挨拶交わしたり、お花を頂いたり少しづつお話するようになった。	※	ご近所・近隣に行事等の声かけし気軽に行き来してもらえ るようなホームにしたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の文化祭や活動・予防教室に利用者と共にできる限り参加している。お祭りには、神輿・獅子舞が入り楽しみにされている。また、地域の広報にも紹介記事を掲載して頂いた。	※	推進会議等を通し地域の事を少しでも多く知り交流を図って行く。
			(外部評価) 「地域に入っていく」ということを実践するために、地区社協や公民館行事に積極的に参加している。民生委員や自治会の方に顔なじみができ、地域の情報が蓄積されつつある。地域との交流で利用者の新たな面を見つけることができ、地域とともにサービスの質を上げることの必要性を実感している。	※	地域との交流は始まったばかりであり、管理者や職員主導で行われている。現在の活動を継続することで、利用者が地域住民として近所の方と顔なじみになることが可能と考えられるので、継続と更なる取組みを期待したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 併設施設なのでそこに通っている高齢者の方の相談に乗ったり、運営推進会を通し色々な話が出来る場を作っている。	※	私達が何か地域で役に立つ事はないか、考える必要がある。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) まず一人一人自己評価をしその後皆で話し合い自分達のケアを振り返り改善点を理解し取り組んでいる。外部からの助言に対しては、真摯に受け止め改善を図っている。	※	見通した所が途中で終わらないようワーカー会等で時折り触れて話し合うようにしたい。
			(外部評価) 職員全員が自己評価を行い、話し合ってまとめている。同じ項目でも人により判断や理解が異なることを話し合いの中で実感し、ケアにもいろいろな視点を持つことの重要性が理解できている。自己評価を一年間のケアの振り返りの機会ととらえ、真摯に取り組んでいる。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者様・家族様にも出来るだけ多勢の方に参加してもらい活動状況や今抱えてる問題を報告し話し合っている。 介護保険担当の市の職員・包括支援センターの職員・民生委員・地域の方に助言を頂きこれからの取り組みに役立っている。	※	会議への参加を消防署・交番等にも入ってもらいサービスの向上に取り組んで行く必要がある。
			(外部評価) 運営推進会議は開設後すぐから行われており、地域の人と交流する機会として有用に活用されている。管理者が地域包括支援センターの職員と以前からの知り合いであることで、会議の進行等の相談もスムーズに行われており、多方面の議題が話し合われている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議等を通して関係作りを深めている他に、今は勉強会にも参加して頂き指導を受けている。	※	会議への参加を消防署・交番などにも入ってもらい、サービスの向上に取り組んで行くと共に、市・及び地域包括支援センターとの連携を密にし、積極的に相談し、助言を求めるようにしていきたい。
			(外部評価) 同法人の施設に併設されているため、行政とは法人全体で連携していることが多く、ホーム独自の取り組みが少ない傾向がある。しかし、地域包括支援センターを核として、地区内のグループホーム連絡会（6事業所）が計画されているので、積極的な取り組みを期待したい。	※	他のグループホームと交流することで、自分のホームの特徴（長所、短所）に気づき、サービスの質も客観的な評価ができる。これらは利用者の生活の質に直結するので、早期の取り組みを期待したい。また、ホーム近くに交番や消防署などがあるので、顔見知りになっておくことも期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を行ったが新職員は、受けていないのでもう一度勉強会を実施する必要がある。	※	一度勉強会しても忘れてたりするので皆が理解できるよう定期的に実施したい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を開き職員で理解している言葉の虐待もあるのでお互い注意し合いながら防止に努めている。	※	外部の研修を含めて勉強会を開き更に理解を深めて行く。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前に本人と家族に見学に来て頂き、その時十分な説明を行っている。 理解納得して頂いてから契約している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) お茶の時間の時に話し合ったり直接言われたりする意見を大切にし個別ケアや日々のケアに役立てている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 面会時に日々の暮らしを報告したり「グループホーム便り」お手紙には、担当職員も一言添えて送っている。おこずかい帳は面会時に見ていただいたり郵送している。又、異状があった場合や、行事で外出する際には、その都度電話連絡している。 (外部評価) 家族の面会が多いため、直接に話し合いができる機会が多い。また、ホーム便りなどの書面や電話連絡などでも利用者の生活ぶりを伝えており、家族とは積極的なコミュニケーションを図っている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 提案箱を設置している。又家族会を通じて意見を聞いたり直接寄せられる意見も大切に良い関係作りに努めている。 (外部評価) 家族と直接話し合う機会として、家族会を開催している。他の家族がいると意見を出しにくい方のために、時間をずらす等、家族会の運営についても配慮している。意見箱の設置や法人内の第三者委員会など、家族が意見を出しやすい配慮がある。	※	皆の前では、言いにくい場合もあると思うので日々の会話の中で思いのくみ取りを丁寧に行ってゆく。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回ユニット会を実施している。日々のケアの中で意見が出た場合は皆で話し合いを行っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 必要に応じて勤務時間の調整を行っている。どの職員も出来る限り協力してくれている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 併設施設なので大きな行事には参加する事も多く職員が異動しても利用者への影響は少なくなるよう心がけている。 (外部評価) 管理者は認知症のケアには馴染みの関係が重要であると考え、職員の定着には心を砕いているが、人事は法人全体からの視点で行われており、職員の異動はある。異動した職員と法人内行事で会った時には積極的に声かけを行うなどしているが、利用者の安心した生活の構築に関してはやや不安が残る。	※	普段から法人内の職員との交流にも努め、利用者の顔馴染みを増やすなど対応を行っているが、法人の認知症ケアの重要なポイントとしての馴染みの関係に対する更なる理解を望みたい。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 併設の施設内での研修・外部研修等に参加している。 (外部評価) 管理者は研修の有用性を十分に認識しており、法人内外にかかわらず職員に周知して受講を促しているが、勤務形態やシフトの関係などで、職員全体が受講しているとまでは言えない。	※ ※	勤務時間等により参加出来ない職員もいるので勉強会を開催し理解を深めていく。 職員の知識の向上はそのまま利用者の生活の質の向上につながる重要なポイントであり、段階に応じて受講しなければならない内容もあると思われるので、積極的な取り組みを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 同法人内ではあるがセクション会を開催しサービスの向上に努めている。 (外部評価) 同法人が多く施設や事業所を運営しており、法人内での行事や勉強会など交流する機会が多い。また、地域包括支援センターを通じてグループホーム連絡会の開催も企画されており、自己研鑽する機会を多くもつ取り組みがなされている。	※	市が呼びかける地域同業者との交流には出来るだけ積極的に参加していく。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 施設全体での懇談会・焼肉の食事を開催し、自由に話が出来る場を提供している。体系時間を利用し職員同士話し合い理解し合っている。	※	必要に応じて対応していきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は、管理者を通し一人一人の気持ちを理解し楽しく働けるよう努めている。	※	職員のそれぞれの特技を生かしていける職場にしていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 見学の際には、ご本人が落ち着いてお話しが出来るような雰囲気作りに努め、よく話を聞くようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族からの話を聞く機会を持ちそれぞれの思いをお互い理解し合える関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 併設施設の為デイサービス・設ケア・訪問介護など各種サービスの提示を行っている。 説明のうえ、こちらの力になりたいと思っている事を伝え支援が行えるように対応している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居目的の相談の方が多いが色々な選択肢を一緒に考えるよう努めている。 (外部評価) 隣接の施設やデイサービスからホームに移行することが可能であるため、利用者は雰囲気を受け入れた状態で生活を始めることができる。また、在宅からの利用者には、管理者が初回訪問時に不安材料を極力取り除く関わり方に力を入れており、安心できる雰囲気づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で一緒に色々な事を助け合って行う事で楽しんだり喜んだりしている。 アットホーム的な関係作りに努めている。 (外部評価) 職員は、利用者との生活に「自分の居場所」を見つけ出す喜びを見出しており、一緒にいることで支え合う関係が成立していることを共有している。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来所時には、日々の生活ぶりを報告したり状態の変化については家族と話し合ったり、協力して頂き本人が安心して生活が送れるよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 一緒に行事に参加して頂いたり、本人様に手紙を書いて頂くなど関係が築けるよう努めている。家族が出来る限り本人と共に過ごせるように宿泊される方もある。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族様が自宅に連れ帰って食事されたり電話や手紙等で連絡が取れるよう支援している。	※	生れた場所思い出の場所を訪ねる機会を設けご本人に懐かしさを感じて頂けるような支援をしていきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 日々の生活の中で協力し一緒に行ったり利用者同士の会話を見守り寄り添い良い関係が築けるよう配慮している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 長期入院で退居された方には、お見舞に行ったり、死亡退居された方の家族様には、地域住民として推進会に参加して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で、さりげなく思いや意見を聞いている。又、それをケアプランに取り入れ本人本位になるよう努めている。 (外部評価) 管理者及び職員は、利用者との共同生活の中でそれぞれの個性を理解しており、日常のケアの中で有用に活用している。現在、それらを記録化する取り組みを始めているが、職員間で共有するところまでは至っていない。	※	センター方式の情報を利用者のかわりに担当職員が記載することで、本人の思いや意向の整理を始めている。記録することで新たな発見もあり、職員間での共有にも有用であるので、更なる取り組みを期待する。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から元気だった頃のように暮らしておられたかさりげなく伺うようにしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 朝・夕申し送り、ケース記録バイタルチェック表申し送りノート等を読んで把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の希望や家族様の意向を聞きながら担当者がプランを立てたものを基にカンファレンスを行いプランを作成している。 (外部評価) 介護計画は担当職員が中心に立案し、職員全員で話し合っている。職員の担当制を取ることで、かえって利用者全体に対して職員個々が介護計画を意識した視点を持つことが可能となっており、チームとしての介護計画に取り組んでいることが理解できる。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 1ヶ月に1回手順通り実施されているか見直ししている。プランは、3ヶ月に1回見直し状態に変化があればその都度見直ししている。 (外部評価) 介護記録を独自の様式で24時間生活変化シートに変えて、利用者の生活について詳細な洞察を行おうとしている。また、利用者の担当職員が、1か月間の記録から介護計画に関連している記述を要約し、ケア会議に諮る取り組みを行っており、現状に基づいた介護計画が立てられている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人ケース記録や申し送りノートに記録し共有している。	※	個人のケース記録の記入方法を変更しその人の様子がわかるように（24時シート）使用している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 買物や通院に家族が行けない場合は、同行や訪問歯科等を支援している。 (外部評価) ホームとしての機能に法人としての多機能が加味されるため、運転手付きの大型車での外出、行事での多くの支援者、施設職員や利用者との日常的なふれあい、多方面の専門職員の支援など、より柔軟な支援が可能となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 毎月1回避難訓練実施、今同では、年2回消防署に来てもらって行っている。ボランティアは、月に1～2回来てもらっている。民生委員さんは、推進会に参加してもらっている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 訪問看護往診を受けている方もおられる。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会に参加していただき、地域との関わり方等相談にのってもらっている。		

13

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 利用者の変化や様子等をファックスや電話等を利用して相談している。必要な知識を身に付けるため看護師に相談したり資料を基に勉強している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) サマリー等を活用して生活の様子等の情報を提供できるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 親しみやすく丁寧な言葉遣いを心がけている。(命令的な言葉遣いにならないよう) 個人情報の書類は、スタッフで取り扱い部外者の出入りのないよう努めている。 (外部評価) 職員は、利用者の状態に応じて声かけを行っている。気になる点は管理者がその都度職員と話し合い、利用者のプライバシー保護に取り組んでいる。記録類はスタッフルームで適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) ご利用者様の希望にゆっくりと聞き自己決定が出来るよう難しい時は、その人に合わせた言葉がけをし本人が決定出来るように工夫している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご利用者様一人一人のペースを大切にし本人希望を聞き支援している。ご自分で意思表示の出来ない方に対しては、職員のペースになってしまう事もある。 (外部評価) 生活のリズムを守るために一日の大きな流れは決まっているが、利用者に生活を楽しんでもらうということが優先されている。しかし、身体上の制約がある利用者には、本人の希望通りに生活ができるとは限らないので、職員は利用者と根気よく話し合って対応している。	※	職員のペースになりつつもその人らしさを保てるよう自己決定が出来るよう支援していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) なじみの美容室に家族と出掛けられたり移動理美容を利用している。外出にはよそ行きの服が着れるよう支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 併設の施設の為厨房での調理が主である。みそ汁・カレー等は、こちらで一緒に行っている。盛付・配膳・後片付けは、一緒に行っている。 (外部評価) 食事は隣接の施設で用意されており、個別対応が必要な場合にはホームで対応している。そのため、時間に余裕があり、準備や片づけを利用者とゆったり行っている。しかし、職員は各自で弁当を持参しており、利用者と一緒に食事を楽しんでいるとは言えない。	※	職員は副食の一部は同じものを食べているが、メイン料理と一緒に食することで、「おいしいね」の一言も重みを増すと考えれ、また、触感や熱い冷たいも旨みの一つであるので、同じ食事をともにすることについて再考を期待する。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 朝食は、パンとご飯どちらかを選ぶ。飲み物も本人の好みに合わせて自由に選んでもらっている。1W/1回パン屋さんが来られるので楽しみにされている方もおられる。酒・タバコの利用者はいないが、希望があれば支援できる。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄パターンを把握したり様子見ながら落ち着かれない時は、トイレ誘導し気持ちの良い排泄が出来るよう支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 声かけして出来る限り入りたい時と入れるように支援している。(週3回～4回) (外部評価) 入浴は、タイミングや回数は利用者の希望に沿うように行っている。管理者は、入浴は身体を清潔に保つこと以外に、本人が安らぎを得る場であり、利用者と職員が信頼関係を構築する場でもあると捉え、ケアのポイントとして重視している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はリハビリ体操・お富さん体操・唄・ホーム前の散歩したり体を動かしたりして頂き夜の安眠につなげている。冬場に眠れない時は、足浴・湯たんぽを入れ安眠の支援に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 家事や畑・花壇作りなど、洗濯・洗濯物たたみ・台拭きなど可能な範囲で自分の事は、自分で出来るよう役割を持って暮らして頂いている。 (外部評価) 職員の定着率が高く、開所当初から利用者と共に生活している職員も多いため、利用者への理解も深く、それぞれの楽しみへの支援も自然と行われている。また、利用期間が短い人には職員間で生活歴の聞き出しをさりげなく行っており、役割や楽しみごとに結びつけるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お小遣いは、自分で管理されている方もおられる。外出時は、出来るだけ自分で支払えるよう支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は、外気浴・神社参拝・スーパーへ買物その人の希望を聞き支援している時には、外でリハビリ体操する時もある。 (外部評価) 気候が許す限り散歩などに誘い、屋外に出ることを支援している。ホームは、車の心配の要らない広い庭や隣接施設など、安全に出かけられる場所には事欠かないため、気分転換を目的に外気に当たる時間を確保するなどに取り組んでいる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 利用者様の希望を伺い毎月2～3回は、外出できるようにプランを立てている。夏祭り・作品展等家族と共に過ごせる機会を作っている。	※	もう少し家族と関わりがもてるようお誕生会には、家族を招待し参加して頂くようにしている。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状や手紙を書いたり電話をこちらからかける声かけ支援している。友人に手紙を出されている方もおられる。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつも気軽に訪問して頂き居心地よく過ごして頂いている。友人の方が訪問して楽しくお話をされている。職員も家族様友人の方に十分配慮し気持ち良く過ごしてもらえるように気配りを行う。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会を行っている。日々のケアの中でも意識して行動している。	※	勉強会を開き更に理解を深めていく。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は、玄関の錠は掛けていない。ユニットの出入り口は、最低限（21時～6時）の施錠をしているのみである。スタッフも理解している。 (外部評価) 玄関の錠は、防犯のためだけに掛けられており、日中はさりげなく見守ることで対応している。玄関がスタッフルームに面しているため見守りがしやすく、隣接施設による見守りも充実しているので安心できる。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は、職員間で声かけ合い安全に注意し見守りを行っている。夜間は30分毎に巡視を行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品の保管 ハサミ・爪切り等は、居室に置いている人もいる。十分に注意し見守っている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ひやりはつとを記入しスタッフ全員でカンファレンスを行って周知徹底している。服薬については、確認し合い間違いの無いよう本人にも確認してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 急変時の連絡体制はとっている。年1回救急救命の講習を順く参加している。	※	講習を受けたスタッフが口頭で伝えるだけでなく勉強会を行っていく。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	(自己評価) 災害対策マニュアルを作成し施設全体として年2回消防署の協力を得て実施している。ホームでは、毎月1回避難訓練を行っている。非常食・飲料水等の備蓄もある。 (外部評価) 建物が平屋で周辺もゆったりとした庭があるため避難には安心感があるが、管理者は災害対策に余念がなく、毎月の避難訓練、年二回の消防署との訓練を行っている。また、災害マニュアルも作成しており、法人全体で災害対策に取り組んでいる。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時に転倒のリスクがある事は、説明している。状態が変わった時や、必要に応じて家族に主治医から今後予測されることも含め説明してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェック表をつけている。何か変化があった場合は、看護師・管理者が医師に報告している。小さな変化でも申し送りノートに記入し共有している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) どのような薬を服用しているか、細かい所までは把握出来ていないが、用法・容量に変化があった時は、確認出来ている。個人のケースに処方箋入れ、いつでも見れるようにしている。	※	職員もご利用様が服用されている薬は何か把握できるようにする。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分をしっかりと飲んで頂く。飲み物にもあきが来ないように気をつけている。栄養面・歩行訓練・リハビリ体操で出来るだけ体を動かすようにしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 寒天・ゼリー等も利用している。朝夕のケアは出来ている。昼食後は、出来てない方もいるので声かけしている。磨き残しの無いように見守り確認している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 必要時訪問歯科受診で対応している。毎日食事量・水分摂取量チェック把握している。少ない方には、申し送り果物等で工夫している。食事面は、管理栄養士がバランスを考え立てている。 (外部評価) 法人の栄養士の指導で、食べる量や栄養バランスなどが決められ、職員が見守りしている。水分量も「最低1200ml 目標1500ml」と記録用紙に記載しており、特に水分摂取に関して管理が必要な利用者には、記録することで慎重な見守りを行っている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作っている。 手洗い・うがい・消毒等毎日実施している。毎日ハイターEでトイレ・手すり・椅子他消毒を行っている。（毎日担当が決まっている。）インフルエンザ予防については、毎年予防接種を受けている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 併設施設の為食材は、厨房で管理されている。毎月1回衛生委員会を開催し、巡視もあり指導を受けている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先には、花を植えたりいつでも休めるよう椅子を置いている。玄関のドアは、開け出入りしやすいような雰囲気作りに工夫している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に合わせた壁面飾り・行事の写真をはり殺風景にならないよう配慮工夫している。 (外部評価) リビングには、大きな窓で風通しや採光が確保されている。車いす利用の利用者が多いため、スムーズな移動を行えるようにスッキリとした設えであるが、花や写真などを適所に配して、殺風景にならないような配慮がある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者の状態に合わせソファを置いてくつろげるよう配慮している。	※	ソファだけなので畳を敷いてくつろげる場所も工夫したい。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所時には、馴染みの物を持って来てもらうようお願いするが、持参される人は少ない中で、出来るだけ自分の居室らしくなるよう工夫している。 (外部評価) 利用者により、ホームが用意したもの、自分が持ってきなものと様々な様子の部屋があるが、どの部屋も温かみのある設えである。家族の写真や手作りの作品などで個性豊かなインテリアとなっている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 朝は、窓を開けて頂くよう声かけし開けている。 冬・夏・エアコンを利用し快適に過ごせるよう配慮している。冬場は、一人一人の状況に合わせ、湿度の調節をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下には、手摺りがついておりつかまり歩行できるようになっている。 浴槽に出入りする時にも取り外し可能な手摺りを付け安心して入浴出来るようにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 表札や手作りののれんをかけ混乱を防ぐようにしている。	※	月1回の職員会の時見直し職員同士ズレのないようにしていく。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ホーム前は、洗濯物干したり歩行訓練の場にして活用している。裏は、新緑を見ながらバイキングを楽しんだりお茶を楽しんでいる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日頃よりコミュニケーションをとり、職員同士で日々の変化を伝え合っているが本心がなかなかつかめない場合もある。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	食事中や午前・午後のお茶の時間ゆっくり過ごす時間をとっている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人一人のペースを大切にしゆっくり使えている方もいるが他の方に気を使って部屋に入っている方もいるのではないかと思います。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	好きな事(散歩・ドライブ・外食・おやつ作り・買物など)一緒にする事で生き生きとした表情がみられる。大きな笑い声が聞かれる時もある。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自分から希望を言われる人もいるが職員が何ヶ所か立案して選んでもらったりもする。好みにそって支援している。車が併施設なので空いている日を選んで出掛けている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	かかりつけ医の定期的な往診で看護師がいるので健康管理が来ている。何かあれば医師や家族と話し合える機会も持っている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者様の訴えを良く聞き、良い方法を一緒に考えるようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時等にコミュニケーションを図り何気ない話の中から聞きとるよう努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	家族様・身内の方・友人の面会に来られる。地域の人々が訪ねて来られる回数が少ないのでいろんな方に訪問して頂けるよう努めたい。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会を通し民生委員さんに公民館での行事を教えて頂き月1回参加している。お料理教室・文化祭にと少しずつ参加する機会が増えている。
98	職員は、生き生きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	皆明るく職員・利用者を含め会話も多く生き生きと働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個別の対応については、まだ満足されていない方もおられると思われる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ご家族とも常にコミュニケーションを図りサービスに関する意見を率直に伺い満足して頂けるよう努めている。特に表立った不満は聞かれない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

○私達のホームは、西の方向に川が流れサギ・小鳥が遊び、桜並木が季節を彩りその下で今は、玉ねぎが育っています。夏には、ひまわり畑になります。平屋のホームなのでユニット間が自由に行き来でき交流しやすいのが特徴です。合同での行事も多く、にぎやかな時間もあります。朝の日課は、2ユニット合同でのリハビリ体操とアカペラ合唱を楽しく、健康維持に励んでいます。

○ご家族様によるミニコンサートも毎月1回ずっと続いています。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームあいじゅ

(ユニット名) 寿

記入者(管理者)

氏 名 根来 聖子

評価完了日 平成 20 年 5 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 皆で話し合い、地域の人達の中に入り生活が送れるように理念を作り、皆で取り組んでいる。 (外部評価) 隣接施設の開設は古く、法人として地域に密着した活動が培われており、その基盤の上にホームの運営がスタートしている。そのため、地域との関わりの重要性をよく理解しており、理念にも地域が組み込まれている。	※	今後も職員・利用者共に定期的に話し合い地域の人達と関わりが持てるよう努めていく。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 利用者様にはどのように過ごしてもらいたいのかユニットの目に付く所に掲示し取り組んでいる。 (外部評価) 管理者と職員は、利用者のケアについては会議以外でも日常的に話し合いを持っている。管理者の理念はそのキャリアに裏付けされており、理念はケアを実践する時の基盤であるという話には重みがある。管理者と職員は良好な関係から、真摯な話し合いをもっている。	※	理念にそってサービスが行えているか今後は、定期的にワーカー会等話し合いの場に出し再認識していきたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議、家族会の時や面会に来られた時、理念の大切さ思いを含めお伝えしているが地域への浸透はできていない。	※	運営推進会議などを通じて地域に向けて理念の浸透を図りたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩の時等出会った時挨拶をしたりお花を頂いたりしている。地域の文化祭に参加し知り合いの人に出逢い話する事が出来た。	※	ご近所・近隣に行事等の声かけし気軽に行き来してもらえそうなホームにしたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の文化祭や活動・予防教室に利用者と共にできる限り参加している。お祭りには、神輿・獅子舞が入り楽しみにされている。また、地域の広報にも紹介記事を掲載して頂いた。	※	推進会議等を通し地域の事を少しでも多く知り交流を図って行く。
			(外部評価) 「地域に入っていく」ということを実践するために、地区社協や公民館行事に積極的に参加している。民生委員や自治会の方に顔なじみができ、地域の情報が蓄積されつつある。地域との交流で利用者の新たな面を見つけることができ、地域とともにサービスの質を上げることの必要性を実感している。	※	地域との交流は始まったばかりであり、管理者や職員主導で行われている。現在の活動を継続することで、利用者が地域住民として近所の方と顔なじみになることが可能と考えられるので、継続と更なる取組みを期待したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 併設施設なのでそこに通っている高齢者の方の相談に乗ったり、運営推進会を通し色々な話が出来る場を作っている。	※	私達が何か地域で役に立つ事はないか、考える必要がある。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) まず一人一人自己評価をし、その後皆で話し合い自分達のケアを振り返り、改善点を理解し取り組んでいる。また、外部からの助言に対しては、真摯に受け止め改善を図っている。	※	見通した所が途中で終わらないようワーカー会等で時折り触れて話し合うようにしたい。
			(外部評価) 職員全員が自己評価を行い、話し合ってまとめている。同じ項目でも人により判断や理解が異なることを話し合いの中で実感し、ケアにもいろいろな視点を持つことの重要性が理解できている。自己評価を一年間のケアの振り返りの機会ととらえ、真摯に取り組んでいる。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	(自己評価) 利用者様・家族様にも出来るだけ多勢の方に参加して頂 き、活動状況や今抱えてる問題を報告し、話し合っている。 介護保険担当の市の職員・包括支援センターの職員・民 生委員・地域の方に助言を頂きこれからの取り組みに役 立っている。	※	出席して頂いていない家族様に特にアプローチして出席 して頂き意見を伺える機会を持ちたい。
			(外部評価) 運営推進会議は開設後すぐから行われており、地域の人 と交流する機会として有用に活用されている。管理者が 地域包括支援センターの職員と以前からの知り合いであ ることで、会議の進行等の相談もスムーズに行われてお り、多方面の議題が話し合われている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	(自己評価) 運営推進会議等を通して関係作りを深めている他に、今 は勉強会にも参加して頂き指導を受けている。	※	会議への参加を消防署・交番などにも入ってもらいサー ビスの向上に取り組んで行く必要がある。また、市・及 び地域包括支援センターとの連携を密にし、積極的に相 談し、助言を求めるようにしていきたい。
			(外部評価) 同法人の施設に併設されているため、行政とは法人全体 で連携していることが多く、ホーム独自の取り組みが少 ない傾向がある。しかし、地域包括支援センターを核と して、地区内のグループホーム連絡会（6事業所）が計 画されているので、積極的な取り組みを期待したい。	※	他のグループホームと交流することで、自分のホームの 特徴（長所、短所）に気づき、サービスの質も客観的な 評価ができる。これらは利用者の生活の質に直結するの で、早期の取り組みを期待したい。また、ホーム近くに 交番や消防署などがあるので、顔見知りになっておくこ とも期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を行ったが新職員は、受けていないのでもう一度 勉強会を実施する必要がある。	※	一度勉強会しても忘れてたりするので皆が理解できるよう 定期的の実施したい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を開き職員で理解している言葉の虐待もあるので お互い注意し合いながら防止に努めている。	※	外部の研修を含めて勉強会を開き更に理解を深めて行 く。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前に本人と家族に見学に来て頂きその時十分な説明を行っている。 理解納得して頂いてから契約している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) お茶の時間の時に話し合ったり直接言われたりする意見を大切にし個別ケアや日々のケアに役立てている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 面会時に日々の暮らしを報告したり「グループホーム便り」お手紙には、担当職員も一言添えて送っている。おこずかい帳は面会時に見ていただいたり郵送している。又、異状があった場合や、行事で外出する際には、その都度電話連絡している。 (外部評価) 家族の面会が多いため、直接に話し合いができる機会が多い。また、ホーム便りなどの書面や電話連絡などでも利用者の生活ぶりを伝えており、家族とは積極的なコミュニケーションを図っている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 提案箱を設置している。又家族会を通じて意見を聞いたり直接寄せられる意見も大切に良い関係作りに努めている。 (外部評価) 家族と直接話し合う機会として、家族会を開催している。他の家族がいると意見を出しにくい方のために、時間をずらす等、家族会の運営についても配慮している。意見箱の設置や法人内の第三者委員会など、家族が意見を出しやすい配慮がある。	※	皆の前では、言いにくい場合もあると思うので日々の会話の中で思いのくみ取りを丁寧に行ってゆく。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回ユニット会を実施している。日々のケアの中で意見が出た場合は皆で話し合いを行っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 必要に応じて勤務時間の調整を行っている。どの職員も出来る限り協力してくれている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 併設施設なので大きな行事には参加する事も多く職員が異動しても利用者への影響は少なくなるよう心がけている。 (外部評価) 管理者は認知症のケアには馴染みの関係が重要であると考え、職員の定着には心を砕いているが、人事は法人全体からの視点で行われており、職員の異動はある。異動した職員と法人内行事で会った時には積極的に声をかけを行うなどしているが、利用者の安心した生活の構築に関してはやや不安が残る。	※	普段から法人内の職員との交流にも努め、利用者の顔馴染みを増やすなど対応を行っているが、法人の認知症ケアの重要なポイントとしての馴染みの関係に対する更なる理解を望みたい。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 併設の施設内での研修・外部研修等に参加している。 (外部評価) 管理者は研修の有用性を十分に認識しており、法人内外にかかわらず職員に周知して受講を促しているが、勤務形態やシフトの関係などで、職員全体が受講しているとまでは言えない。	※ ※	勤務時間等により参加出来ない職員もいるので勉強会を開催し理解を深めていく。 職員の知識の向上はそのまま利用者の生活の質の向上につながる重要なポイントであり、段階に応じて受講しなければならない内容もあると思われるので、積極的な取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 同法人内ではあるがセッション会を開催しサービスの向上に努めている。 (外部評価) 同法人が多く施設や事業所を運営しており、法人内での行事や勉強会など交流する機会が多い。また、地域包括支援センターを通じてグループホーム連絡会の開催も企画されており、自己研鑽する機会を多くもつ取り組みがなされている。	※	市が呼びかける地域同業者との交流には出来るだけ積極的に参加していく。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 施設全体での懇談会・焼肉の食事を開催し、自由に話が出来る場を提供している。体系時間を利用し職員同士話し合い理解し合っている。	※	必要に応じて対応していきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は、管理者を通し一人一人の気持ちを理解し楽しく働けるよう努めている。	※	職員のそれぞれの特技を生かしていける職場にしていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 見学の際には、ご本人が落ち着いてお話しが出来るような雰囲気作りに努め、よく話を聞くようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族からの話を聞く機会を持ちそれぞれの思いをお互い理解し合える関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 併設施設の為デイサービス・設ケア・訪問介護など各種サービスの提示を行っている。 説明のうえ、こちらの力になりたいと思っている事を伝え支援が行えるように対応している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居目的の相談の方が多いが色々な選択肢を一緒に考えるよう努めている。デイケア利用後入居された方もおられる。 (外部評価) 隣接の施設やデイサービスからホームに移行することが可能であるため、利用者は雰囲気を受け入れた状態で生活を始めることができる。また、在宅からの利用者には、管理者が初回訪問時に不安材料を極力取り除く関わりに力を入れており、安心できる雰囲気づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で一緒に色々な事を助け合って行う事で楽しんだり喜んだりしている。 アットホーム的な関係作りに努めている。 (外部評価) 職員は、利用者との生活に「自分の居場所」を見つけ出す喜びを見出しており、一緒にいることで支え合う関係が成立していることを共有している。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来所持には、日々の生活ぶりを報告したり状態の変化については家族と話し合ったり、協力して頂き本人が安心して生活が送れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 一緒に行事に参加して頂いたり、本人様に手紙を書いて頂くなど関係が築けるよう努めている。家族が出来る限り本人と共に過ごせるように宿泊される方もある。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族様が自宅に連れ帰って食事されたり電話や手紙等で連絡が取れるよう支援している。	※	生れた場所思い出の場所を訪ねる機会を設けご本人に懐かしさを感じて頂けるような支援をしていきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 日々の生活の中で協力し一緒に行ったり利用者同士の会話を見守り寄り添い良い関係が築けるよう配慮している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 長期入院で退居された方にはお見舞に行ったり死亡退居された方の家族には、地域住民として推進会に参加して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中でさりげなく思いや意見を聞いている。又、それをケアプランに取り入れ本人本位になるよう努めている。 (外部評価) 管理者及び職員は、利用者との共同生活の中でそれぞれの個性を理解しており、日常のケアの中で有用に活用している。現在、それらを記録化する取り組みを始めているが、職員間で共有するところまでは至っていない。	※	センター方式の情報を利用者のかわりに担当職員が記載することで、本人の思いや意向の整理を始めている。記録することで新たな発見もあり、職員間での共有にも有用であるので、更なる取り組みを期待する。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から元気だった頃のように暮らしておられたかさりげなく伺うようにしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 朝・夕申し送り、ケース記録バイタルチェック表申し送りノート等を読んで把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の希望や家族様の意向を聞きながら担当者がプランを立てたものを基にカンファレンスを行いプランを作成している。 (外部評価) 介護計画は担当職員が中心に立案し、職員全員で話し合っている。職員の担当制を取ることで、かえって利用者全体に対して職員個々が介護計画を意識した視点を持つことが可能となっており、チームとしての介護計画に取り組んでいることが理解できる。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 1ヶ月に1回手順通り実施されているか見直ししている。プランは、3ヶ月に1回見直し状態に変化があればその都度見直ししている。 (外部評価) 介護記録を独自の様式で24時間生活変化シートに変えて、利用者の生活について詳細な洞察を行おうとしている。また、利用者の担当職員が、1か月間の記録から介護計画に関連している記述を要約し、ケア会議に諮る取り組みを行っており、現状に基づいた介護計画が立てられている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人ケース記録や申し送りノートに記録し共有している。	※	個人のケース記録の記入方法を変更しその人の様子がわかるように（24時シート）使用している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 買物や通院に家族が行けない場合は、同行・訪問歯科等を支援している。 (外部評価) ホームとしての機能に法人としての多機能が加味されるため、運転手つきの大型車での外出、行事での多くの支援者、施設職員や利用者との日常的なふれあい、多方面の専門職員の支援など、より柔軟な支援が可能となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 毎月1回避難訓練実施、今同では、年2回消防署に来てもらって行っている。ボランティアは、月に1～2回来てもらっている。民生委員さんは、推進会に参加してもらっている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 訪問歯科を利用されている方もおられる。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会に参加して頂き、地域との関わり方等相談にのってもらっている。		

36

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又 は取組みを期 待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 利用者の変化や様子等をファックスや電話等を利用して相談している。必要な知識を身に付けるため看護師に相談したり資料を基に勉強している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) サマリー等を活用して生活の様子等の情報を提供できるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 親しみやすく丁寧な言葉遣いを心がけている。(命令的な言葉遣いにならないよう) 個人情報の書類は、スタッフで取り扱い部外者の出入りのないよう努めている。 (外部評価) 職員は、利用者の状態に応じて声かけを行っている。気になる点は管理者がその都度職員と話し合い、利用者のプライバシー保護に取り組んでいる。記録類はスタッフルームで適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) ご利用者様の希望にゆっくりと聞き自己決定が出来るよう難しい時は、その人に合わせた言葉がけをし本人が決定出来るように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご利用者様一人一人のペースを大切にし本人希望を聞き支援している。ご自分で意思表示の出来ない方に対しては、職員のペースになってしまう事もある。 (外部評価) 生活のリズムを守るために一日の大きな流れは決まっているが、利用者に生活を楽しんでもらうということが優先されている。しかし、身体上の制約がある利用者には、本人の希望通りに生活ができるとは限らないので、職員は利用者と根気よく話し合って対応している。	※	職員のペースになりつつもその人らしさを保てるよう自己決定が出来るよう支援していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) なじみの美容室に家族と出掛けられたり移動理美容を利用している。外出にはよそ行きの服が着れるよう支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 併設の施設の為厨房での調理が主である。みそ汁・カレー等は、こちらで一緒に行っている。盛付・配膳・後片付けは、一緒に行っている。 (外部評価) 食事は隣接の施設で用意されており、個別対応が必要な場合にはホームで対応している。そのため、時間に余裕があり、準備や片付けを利用者とゆったり行っている。しかし、職員は各自で弁当を持参しており、利用者と一緒に食事を楽しんでいるとは言えない。	※	職員は副食の一部は同じものを食べているが、メイン料理と一緒に食することで、「おいしいね」の一言も重みを増すと考えれ、また、触感や熱い冷たいも旨みの一つであるので、同じ食事をともにすることについて再考を期待する。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 朝食は、パンとご飯どちらかを選ぶ。飲み物も本人の好みに合わせて自由に選んでもらっている。1W/1回パン屋さんが来られるので楽しみにされている方もおられる。酒・タバコの利用者はいないが、希望があれば支援できる。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄パターンを把握したり様子見ながら落ち着かれない時は、トイレ誘導し気持ちの良い排泄が出来るよう支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 声かけして出来る限り入りたい時と入れるように支援している。(週3回～4回) (外部評価) 入浴は、タイミングや回数は利用者の希望に沿うように行っている。管理者は、入浴は身体を清潔に保つこと以外に、本人が安らぎを得る場であり、利用者と職員が信頼関係を構築する場でもあると捉え、ケアのポイントとして重視している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はリハビリ体操・お富さん体操・唄・ホーム前を散歩したりと体を動かすようにしている。利用者の中には、30分位歩かないと行けない方もおられるので個別に対応している。足浴・湯たんぽを入れ安眠の支援に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 家事や畑・花壇作りなど、洗濯・洗濯物たたみ・台拭きなど可能な範囲で自分の事は、自分で出来るよう役割を持って暮らして頂いている。 (外部評価) 職員の定着率が高く、開所当初から利用者と共に生活している職員も多いため、利用者への理解も深く、それぞれの楽しみへの支援も自然と行われている。また、利用期間が短い人には職員間で生活歴の聞き出しをさりげなく行っており、役割や楽しみごとに結びつけるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お小遣いは、自分で管理されている方もおられる。外出時は、出来るだけ自分で支払えるよう支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は、外気浴・神社参拝・スーパーへ買物その人の希望を聞き支援している時には、外でリハビリ体操する時もある。 (外部評価) 気候が許す限り散歩などに誘い、屋外に出ることを支援している。ホームは、車の心配の要らない広い庭や隣接施設など、安全に出かけられる場所には事欠かないため、気分転換を目的に外気に当たる時間を確保するなどに取り組んでいる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 利用者様の希望を伺い毎月2～3回は、外出できるようにプランを立てている。夏祭り・作品展等家族と共に過ごせる機会を作っている。	※	もう少し家族と関わりがもてるようお誕生会には、家族を招待し参加して頂くようにしている。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状や手紙を書いたり電話をこちらからかける声かけ支援している。友人に手紙を出されている方もおられる。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつも気軽に訪問して頂き居心地よく過ごして頂いている。友人の方が訪問して楽しくお話をされている。職員も家族様友人の方に十分配慮し気持ち良く過ごしてもらえるように気配りを行う。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会を行っている。日々のケアの中でも意識して行動している。	※	勉強会を開き更に理解を深めていく。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は、玄関の錠は掛けていない。ユニットの出入り口は、最低限（21時～6時）の施錠をしているのみである。スタッフも理解している。 (外部評価) 玄関の鍵は、防犯のためだけに掛けられており、日中はさりげなく見守ることで対応している。玄関がスタッフルームに面しているため見守りがしやすく、隣接施設による見守りも充実しているので安心できる。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は、職員間で声かけ合い、安全に注意し見守りを行っている。夜間は30分毎に巡視を行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品の保管 ハサミ・爪切り等は、居室に置いている人もいる。十分に注意し見守っている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ひやりはつとを記入しスタッフ全員でカンファレンスを行って周知徹底している。服薬については、確認し合い間違いの無いよう本人にも確認してもらっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 急変時の連絡体制はとっている。年1回救急救命の講習を順く参加している。	※	講習を受けたスタッフが口頭で伝えるだけでなく勉強会を行っていく。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 災害対策マニュアルを作成し施設全体として年2回消防署の協力を得て実施している。ホームでは、毎月1回避難訓練を行っている。非常食・飲料水等の備蓄もある。 (外部評価) 建物が平屋で周辺もゆったりとした庭があるため避難には安心感があるが、管理者は災害対策に余念がなく、毎月の避難訓練、年二回の消防署との訓練を行っている。また、災害マニュアルも作成しており、法人全体で災害対策に取り組んでいる。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時に、転倒のリスクがある事は説明している。状態が変わった時や、必要に応じて家族に主治医から今後予測されることも含め説明してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェック表をつけている。何か変化があった場合は、看護師・管理者が医師に報告している。小さな変化でも申し送りノートに記入し共有している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) どのような薬を服用しているか、細かい所までは把握出来ていないが、用法・容量に変化があった時は、確認出来ている。個人のケースに処方箋を入れ、いつでも見れるようにしている。	※	職員もご利用様が服用されている薬は何か把握できるようにする。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分をしっかりと飲んで頂く。飲み物にもあきが来ないように気をつけている。栄養面・歩行訓練・リハビリ体操で出来るだけ体を動かすようにしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 寒天・ゼリー等も利用している。朝夕のケアは出来ている。昼食後は、出来てない方もいるので声かけしている。磨き残しの無いように見守り確認している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 必要時訪問歯科受診で対応している。毎日食事量・水分摂取量チェック把握している。少ない方には、申し送り果物等で工夫している。食事面は、管理栄養士がバランスを考え立てている。 (外部評価) 法人の栄養士の指導で、食べる量や栄養バランスなどが決められ、職員が見守りしている。水分量も「最低1200ml 目標1500ml」と記録用紙に記載しており、特に水分摂取に関して管理が必要な利用者には、記録することで慎重な見守りを行っている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作っている。 手洗い・うがい・消毒等毎日実施している。毎日ハイターEでトイレ・手摺り・椅子他消毒を行っている。（毎日担当が決まっている。）インフルエンザ予防については、毎年予防接種を受けている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 併設施設の為食材は、厨房で管理されている。毎月1回衛生委員会を開催し、巡視もあり指導を受けている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先には、花を植えたりいつでも休めるよう椅子を置いている。玄関のドアは、開け出入りしやすいような雰囲気作りに工夫している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に合わせた壁面飾り・行事の写真をはり殺風景にならないよう配慮工夫している。 (外部評価) リビングには、大きな窓で風通しや採光が確保されている。車いす利用の利用者が多いため、スムーズな移動を行えるようにスッキリとした設えであるが、花や写真などを適所に配して、殺風景にならないような配慮がある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者の状態に合わせソファを置いてくつろげるよう配慮している。	※	ソファだけなので畳を敷いてくつろげる場所も工夫したい。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所時には、馴染みの物を持ってきてもらうようお願いするが持参される人は、少ない中で出来るだけ自分の居室らしくなるよう工夫している。 (外部評価) 利用者により、ホームが用意したもの、自分が持ってきなものと様々な様子の部屋があるが、どの部屋も温かみのある設えである。家族の写真や手作りの作品などで個性豊かなインテリアとなっている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 朝は、窓を開けて頂くよう声かけし開けている。 冬・夏・エアコンを利用し快適に過ごせるよう配慮している。冬場は、一人一人の状況に合わせて湿度の調節をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下には、手摺りがついておりつかまり歩行できるようになっている。 浴槽に出入りする時にも取り外し可能な手摺りを付け安心して入浴出来るようにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 表札や手作りのれんをかけ混乱を防ぐようにしている。	※	月1回の職員会の時見直し職員同士ズレのないようにしていく。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ホーム前は、洗濯物干したり歩行訓練の場にして活用している。裏は、新緑を見ながらバイキングを楽しんだりお茶を楽しんでいる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日頃よりコミュニケーションをとり、職員同士で日々の変化を伝え合っているが本心がなかなかつかめない場合もある。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	食事中や午前・午後のお茶の時間ゆっくり過ごす時間をとっている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人一人のペースを大切にしゆっくり使えている方もいるが他の方に気を使って部屋に入っている方もいるのではないかと思います。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	好きな事(散歩・ドライブ・外食・おやつ作り・買物など)一緒にする事で生き生きとした表情がみられる。大きな笑い声が聞かれる時もある。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自分から希望を言われる人もいるが職員が何ヶ所か立案して選んでもらったりもする。好みにそって支援している。車が併設施設なので空いている日を選んで出掛けている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	かかりつけ医の定期的な往診で看護師がいるので健康管理が来ている。何かあれば医師や家族と話し合える機会も持っている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者様の訴えを良く聞き、良い方法を一緒に考えるようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時等にコミュニケーションを図り何気ない話の中から聞きとるよう努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	家族様・身内の方・友人の面会に来られる。地域の人々が訪ねて来られる回数が少ないのでいろんな方に訪問して頂けるよう努めたい。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会を通し民生委員さんに公民館での行事を教えて頂き月1回参加している。お料理教室・文化祭にと少しずつ参加する機会が増えている。
98	職員は、生き生きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	皆明るく職員・利用者を含め会話も多く生き生きと働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個別の対応については、まだ満足されていない方もおられると思われる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ご家族とも常にコミュニケーションを図りサービスに関する意見を率直に伺い満足して頂けるよう努めている。特に表立った不満は聞かれない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

○私達のホームは、西の方向に川が流れサギ・小鳥が遊び、桜並木が季節を彩りその下で今は、玉ねぎが育っています。夏には、ひまわり畑になります。平屋のホームなのでユニット間が自由に行き来でき交流しやすいのが特徴です。合同での行事も多く、にぎやかな時間もあります。朝の日課は、2ユニット合同でのリハビリ体操とアカペラ合唱で、楽しく健康維持に励んでいます。

○ご家族様によるミニコンサートも毎月1回ずっと続いています。